



実施報告書

2024 年度日系社会次世代育成研修 (大学生招へいプログラム)

2025 年 3 月
独立行政法人国際協力機構（JICA）
公益社団法人青年海外協力協会

目次

I	日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）概要	1
II	研修員名簿	4
III	プログラム日程	6
IV	プログラム内容	7
V	研修員所感	18
VI	総評	25
VII	添付資料（募集要項）	26

I 日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）概要

1. 研修の目的

中南米の日系社会は世代交代が進み、2世、3世以降が今後の日系社会を担う存在となっています。本研修は、今後の日系社会を担う世代に対する本邦での研修を通して、日本との関係強化や移住先社会の発展に貢献できるような人物を育成することを目的としています。

本研修では、将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日系子弟の大学生が、日本人の海外移住の歴史に関する学習、本邦大学での研修、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツと日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティを強化することをねらいとしています。

2. 研修期間

来日日：2024年6月24日（月） 離日日：2024年7月17日（水）

3. 研修員内訳（名簿は4ページを参照）

研修員

（1）人 数：27名

（2）出身国：ブラジル10名、ボリビア2名、パラグアイ1名、ペルー2名、
アルゼンチン3名、メキシコ5名、コロンビア3名、ドミニカ共和国1名

4. 各プログラムの目的

カテゴリー	目的	講義等
導入	パワーポイントを使い、自身が暮らす町や日系社会、家族等についてプレゼンテーションを行い、互いの人となりを知る。また、他国へ移住した他の研修員の家族の歴史を聞くことで、中南米8カ国の移住の歴史や日系社会について知る。	プレゼンテーション (国紹介)
	「馬車道地区」にある海外移住に関する記念碑等を見学し、移住学習への関心を高める。	馬車道地区散策
移住学習	時代ごとの海外移住の歴史、背景等を学ぶ。 また、自身の家族の移住の歴史について理解を深める。	日系と架け橋としての ニッケイ/ 海外移住資料館見学
	日系人のアイデンティティに関する様々な事例から、自らの日系人としてのアイデンティティについて考え、強化する。	日系人とアイデンティティと その多様性
	日系人がどのような可能性を秘めているのか等を考える。	日系人のポテンシャル
	研修の内容を振り返り、グループでのディスカッションを行い、理解を深める。	振り返りディスカッション
大学研修	日本の大学生活を体験する。 日本の学生と交流する。	大学研修（全体研修）
研修旅行	1. 箱根ジオミュージアムを訪れ、火山について学ぶ。 2. 鎌倉の寺社仏閣を訪れ、日本の歴史、文化を知る。	研修旅行（箱根、鎌倉）
その他	日本に移住した方たちの支援活動を通して課題を知る。リーダーとしての資質を学ぶ。	日本で活躍されている日系の方から講話、ラテンアメリカ出身のこどもたちへの教育支援活動紹介
	日本の技術や文化を学ぶ。	施設見学
	発信力や自己表現力を高める。	プレゼンテーション・スキル講座
	日本へ留学するための情報を得る。奨学金制度を利用して来日している日系留学生と交流する。	日本への留学
	日本文化を学び、日本に対する理解を深める。	日本文化体験講座 (茶道、書道、七夕) 藍染体験

5. 各カテゴリーの実施について

(1) 導入

来日前に準備したパワーポイントを使って自国の紹介を行い、これから一緒に研修を受ける研修員同士のこと、近くの国の日系社会のことを理解し合いました。

また、JICA 横浜周辺の馬車道地区にある海外移住に関連した記念碑等を巡る「馬車道地区散策」を実施しました。事前にグループで各スポットについて調べ、移住の歴史に関する理解が深まりました。

(2) 移住学習

移住学習では、日本人の海外移住の歴史を学び、日系人としての可能性やアイデンティティを強化するため「日系人と架け橋としてのニッケイ」「日系人のアイデンティティとその多様性」「日系人のポテンシャル」の3つのテーマで3つの講義を行いました。講義の中では、グループディスカッションで意見交換や情報共有を行いました。また、来日前に家族から聞いた移住の話や知っている歴史を基に移住年表を作成し、中南米へ移住した日本人の海外移住の歴史や経緯、移住後の生活を見える化し、理解を深めました。

最終発表では、「日系人のアイデンティティ」「日系人のポテンシャル」「日系と懸け橋としてのニッケイ」「日本の文化・習慣」の中から、テーマを一つ選択し、グループで研修中に学んだことや体験したことについて発表を行いました。

(3) 大学研修について

- 2024年7月1日(月)・7月8日(月) 横浜国立大学
- 2024年7月8日(月) 東海大学

(4) 研修旅行

	訪問先、実施内容
7月5日(金)	鎌倉(円覚寺、建長寺、鶴岡八幡宮、高德院大仏殿、長谷寺)
7月10日(水)	箱根(芦ノ湖、大涌谷、深澤銭洗弁財天)

(5) その他

上記(1)～(4)のカテゴリー以外で本研修の目的達成のために必要なプログラムとして、「プレゼンテーション・スキル講座」「日本への留学」「施設見学」「日本文化体験」を実施しました。

II 研修員名簿

No.	国名	学校名
1	ブラジル	パラナ連邦大学 建築学部建築学科
2	ブラジル	サンパウロ大学 建築学部建築学科
3	ブラジル	パラナ連邦大学 栄養学科
4	ブラジル	パラナ・マッケンジ大学 医学部医学科
5	ブラジル	パラナカトリック大学 法学部
6	ブラジル	ソロカバ大学 化学学部
7	ブラジル	パラナ連邦技術大学 コンピューター情報学科
8	ブラジル	サンパウロ大学連邦大学 文学部ポルトガル語学科
9	ブラジル	APARICIO CARVALHO 大学 医学部医学科
10	ブラジル	São CAETANO DO SUL 大学 医学部医学科
11	アルゼンチン	ラプラタ国立大学 航空宇宙工学科
12	アルゼンチン	サルタ国立大学 電気機械工学科
13	アルゼンチン	国立技術大学 電子工学科
14	パラグアイ	カトリカ大学 経営学部経営管理学科
15	ペルー	カトリカ大学 舞台芸術学部ダンス専攻
16	ペルー	リマ大学 工学・建築学部
17	ボリビア	UNANDES 大学 経営ビジネスサイエンス学部 ファッションデザイナー学科
18	ボリビア	UPSA 大学 建築・デザイン・都市計画学部 工業デザイン学科
19	ドミニカ共和国	サン・イグナシオ・デ・ロジョラ技術専門高校
20	メキシコ	モンテレー工科大学 金融学部

No.	国名	学校名
21	メキシコ	モンテレー工科大学 工学-応用科学部
22	メキシコ	日本メキシコ学院
23	メキシコ	バジェデメヒコ大学 高等部
24	メキシコ	メキシコ国立自治大学 哲学・文学部スペイン語文学
25	コロンビア	アンデス大学 経営経済学部
26	コロンビア	ハベリアナ大学 建築学部
27	コロンビア	Autonoma del Caribe 大学 建築学部

Ⅲ プログラム日程

実施日	曜日	朝会 9:30	9:30～ 10:20	10:30 ～ 11:20	11:30～ 12:20	12:20 ～ 14:00	14:00 ～ 14:50	15:00 ～ 15:50	16:00 ～ 16:50	17:00 ～ 18:00	場所
6/24	月	来日日									
25	火	朝会 (9:45)	開講式 (10:00～10:50)	健康管理 OR※	昼休み (12:00～ 14:00)	アイス ブレイク	研修 オリエンテーション		夕会	JICA横浜 会議室1	
26	水	朝会	馬車道地区散策		昼休み	プレゼンテーション (国紹介)		夕会	JICA横浜 会議室1		
27	木	朝会	プレゼンテーション・スキル講座		昼休み	施設見学(1) 横浜市民防災センター		夕会	JICA横浜 会議室1		
28	金	朝会	日本文化体験講座 1 書道		昼休み	大学研修オリエンテーション		夕会	JICA横浜 会議室1		
29	土	休日									
30	日	休日									
7/1	月	大学研修(全体研修) 横浜国立大学									横浜国立大学
2	火	朝会	日系人のポテンシャル		昼休み	日系と懸け橋としてのニッケイ JICA海外移住資料館見学		夕会	JICA横浜 会議室1		
3	水	朝会	日本文化体験講座 2 茶道/七夕		昼休み	日系人のアイデンティティと その多様性		夕会	JICA横浜 会議室1・和室		
4	木	朝会	施設見学(2) 川崎市立日本民家園		昼休み	NPO日本ペルー共生協会 活動見学(16:00～19:00)		神奈川県 川崎市/大和市			
5	金	研修旅行(1) 鎌倉									
6	土	休日									
7	日	休日									
8	月	大学研修(全体研修) 横浜国立大学									横浜国立大学
9	火	大学研修(全体研修) 東海大学									東海大学
10	水	研修旅行(2) 箱根									
11	木	朝会	移住年表を作ろう		昼休み	日本への留学		夕会	JICA横浜 会議室1		
12	金	朝会	振り返り ディスカッション	報告書 OR※	昼休み	報告書作成		夕会	JICA横浜 会議室1		
13	土	休日									
14	日	休日									
15	月	朝会	帰国OR	最終発表準備		昼休み	最終発表リハーサル		夕会	JICA横浜 会議室1	
16	火	朝会 (9:45)	最終発表 (10:00～12:00)		昼休み	閉講式	交流会	帰国準備		JICA横浜※ 会議室1/SR6・7	
17	水	離日日									
※OR=オリエンテーション ※SR=セミナールーム											

IV プログラム内容

1日目【6月24日（月）】

◆ 来日

8カ国（ブラジル、ボリビア、パラグアイ、ペルー、アルゼンチン、コロンビア、メキシコ、ドミニカ共和国）からの研修員27名が、来日しました。

2日目【6月25日（火）】

◆ 開講式

JICA 横浜の大野所長による挨拶、スタッフの紹介の後、研修員は自己紹介を行い、これから始まる研修への意気込みを話しました。



◆ 健康管理オリエンテーション

JICA 横浜の健康管理員により、研修中の健康管理についてオリエンテーションを行いました。

◆ アイスブレイク

研修員同士が打ち解けられるように簡単なゲームを用いたアイスブレイクを行いました。日本地図を用いて、家族の出身都道府県の番号順に列を作るアクティビティでは、ほとんどの研修員が正解しており、自国での活動を想像できるようでした。ゲーム方式で行った自己紹介を通してお互いの名前を覚え、早速名前で呼びあえるようになりました。



◆ 研修オリエンテーション

研修の日程や生活の決まりについて確認しました。

3日目【6月26日（水）】

◆馬車道地区散策

JICA 横浜周辺の「馬車道地区」を散策し、海外移住に関連した記念碑等を巡りました。研修員たちはグループで一つのスポットについて調べ、各スポットで紹介し合いました。

日本とブラジルやペルーとの友好のモニュメントや、移住者の出発地となった大さん橋を訪れました。



◆ プレゼンテーション（国紹介）

パワーポイントを使って、自国や町の日系社会での活動、家族について、日本語または英語でプレゼンテーションを行いました。このプレゼンテーションにより、他国の研修員の家族のことや日系コミュニティを知ることができました。



4日目【6月27日（木）】

◆ プレゼンテーション・スキル講座

講話でプレゼンテーションの作り方について学んだ後、グループで文化についてプレゼンテーションを作りました。「プレゼンテーションの単純なことが非常に重要だとわかった。」「今後のプレゼンテーションに応用できる情報を学んだ。」と話していました。



◆ 施設見学（1）横浜市民防災センター

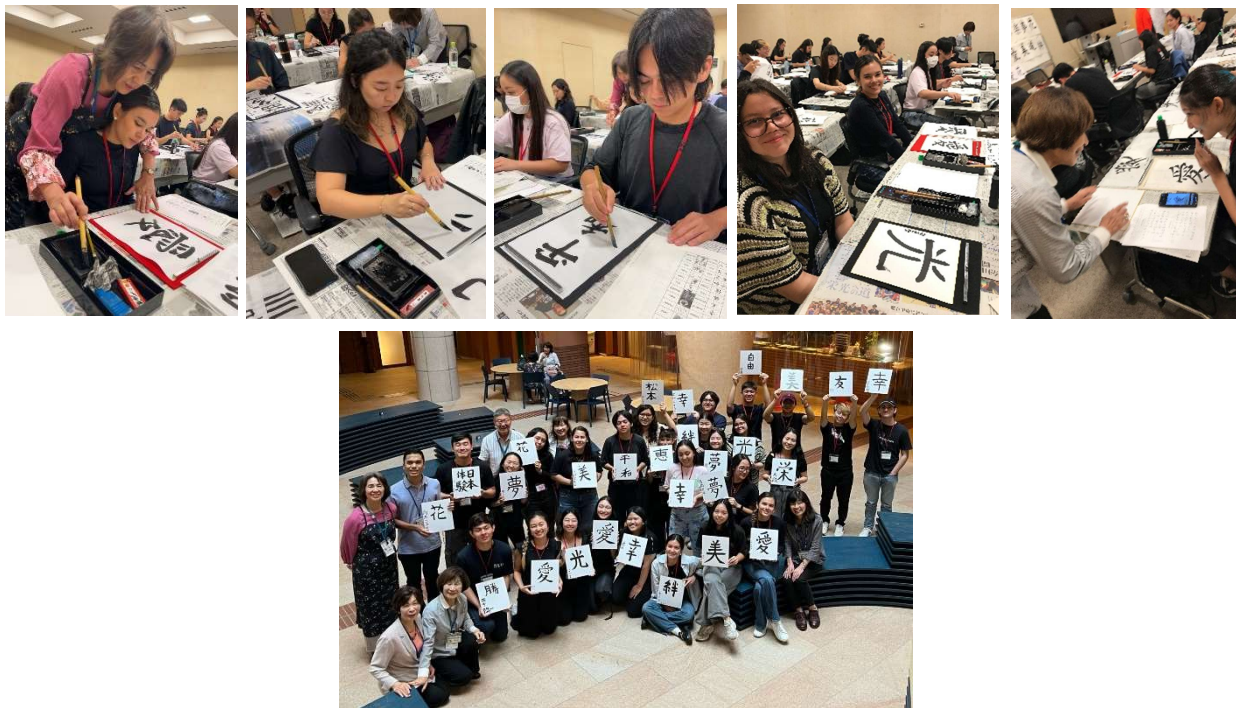
「風水害体験プログラム」「地震・火災体験プログラム」に参加し、事前に準備できること、災害が起きたらどのように行動するか学びました。



5日目【6月28日（金）】

◆ 日本文化体験講座（1）書道

書道が初めての研修員も経験者もそれぞれのペースで練習しました。清書では色紙に好きな言葉や自身の名前など漢字1文字を選んで書きました。講師の助けを借りながら、作品を仕上げました。



◆ 大学研修オリエンテーション

大学研修のスケジュールや行き方、大学でどのようなことをするのか等の、説明を聞きました。また、大学での活動に向けて、グループに分かれ準備をしました。

8日目【7月1日（月）】

◆ 大学研修（全体研修） 横浜国立大学 1日目

横浜国立大学で、大学生と交流しました。6つのテーマ（サブカルチャー、食、公共空間、教育、多文化共生、観光）が設けられ、それぞれ学部制によるプレゼンテーションを聞きました。その後、研修員もそれぞれのグループに加わりディスカッションを行いました。2日目のグループ発表に向けて、準備を始めました。



9日目【7月2日（火）】

◆ 講義「日系人のポテンシャル」

日系人がどのような可能性を持っているか考察しました。現在の日本とラテンアメリカの状況を知り、どのように互いに貢献できるか等を話し合いました。「グループディスカッションで、日系社会に対する私たちの使命について考えさせられました。」「私たちの可能性を理解するということは、まず私たちが何者であるかを知ることでした。」などの感想がありました。



◆ 講義「日系と懸け橋としてのニッケイ」/JICA 海外移住資料館 見学

日本人の海外移住の歴史や、アイデンティティ、日本人の血を引く「日系人」と日本や日本の文化を愛し日本人や日系人と共にイベントなどに参加している「ニッケイ」の違いなどについて学びました。

「講義の中で、「あなたの影にはあなたの先祖がいる。」という言葉が印象的だったし、真実だと思った。」「海外移住資料館で祖父が乗った船の写真を見てとても興味深かった。」などと話していました。



10日目【7月3日（水）】

◆ 日本文化体験 茶道

日本の伝統文化である茶道を体験しました。所作の流れや意味にも関心を持って取り組みました。研修員は、「お茶や動作だけでなく、考え方についても学びました。」「お茶の準備はまるで芸術のようだった。」と話していました。



◆ 日本文化体験 七夕

研修員の国でも祝われることがある「七夕」の起源、伝説について学び、七夕飾りを作りました。研修員はそれぞれ短冊に願いを込めました。



◆ 講義「日系人のアイデンティティとその多様性」

講師が示した豊富な事例から、時代や環境、立場などでアイデンティティが変化すること、様々なアイデンティティがあることを学びました。グループワークで他の研修員の話聞いて、「全ての意見が異なっていて、本当に興味深かった。」「自分のアイデンティティについて、頭にいろいろな質問が浮かんできた。」と話していました。



11日目【7月4日(木)】

◆ 施設見学（2）川崎市立日本民家園、川崎市伝統工芸館

全国から移設された古民家を見学して、日本の伝統的な生活様式に触れました。また、藍染を体験し、思い思いにハンカチを染めました。



◆ 活動見学 特定非営利活動法人日本ペルー共生協会 継承スペイン語教室見学

NPO法人日本ペルー共生協会会長から団体の活動を伺いました。日本の課題を知るとともに、日系人のポテンシャルについても考える機会になりました。その後、活動の一つである継承スペイン語教室を見学し、受講生の皆様と交流しました。小学生とはゲームをして、中高生、成人の受講生とは意見交換を通して、これまでの座学で学んだことを深めている様子が見られました。



12日目【7月5日（金）】

◆ 研修旅行（1）鎌倉

鎌倉では、鎌倉五山の円覚寺、建長寺を見学して、鶴岡八幡宮、高德院大仏殿、長谷寺と寺社仏閣を訪れ、歴史的建造物や日本文化に触れました。研修員は「12世紀から残る建物を見ることができて感動した。」「まるで映画のように美しい町だった。」など話していました。



15 日目【7 月 8 日（月）】

◆ 大学研修（全体研修）横浜国立大学 2 日目

1 日目のグループで調査したことをまとめて発表しました。発表では、各テーマにおける各国の状況を交えて考察を話しました。学生との交流を通して日本の習慣や考え方の違いにも理解を深めていました。



16 日目【7 月 9 日（火）】

◆ 大学研修（全体研修） 東海大学

学生とアイスブレイクで打ち解けた後、国名を伏せたデータがどこの国のものか、グループで意見交換しながら推測しました。日本と研修員の国のデータを比較して、互いの国事情について考え、理解を深めました。



17日目【7月10日（水）】

◆ 研修旅行 箱根

箱根海賊船で芦ノ湖を遊覧し、大涌谷で箱根ジオミュージアムを見学しました。火山のことや自然の恵みを活かした観光開発について学びました。深澤銭洗弁財天を訪れて通貨を洗ったり、神社を見学したりしました。最後は新幹線で帰路につきました。



18日目【7月11日（木）】

◆ 移住年表を作ろう

事前学習で調べた家族の移住についての情報を共有し、近隣の国ではどうだったのか、世界はどのような時代だったのかなど、各自の知識を共有しながらグループ毎に独自の年表を作成しました。研修員は「年表を作る中で、私たちの祖先の移住に関する多くの類似点を発見でき、研修員をより身近に感じられた。」「各国の日系コミュニティをより深く知る機会になった。」などの感想がありました。



◆ 日本への留学

「JICA 日系社会リーダー育成事業」と日本財団による「日系スカラーシップ」の制度について、説明を受けた後、これらの制度で来日中の現役留学生と交流しました。研修員は「留学プログラムについて、たくさんのヒントをいただいた。」「奨学金に応募できるように語学を上達させたい。」と、留学生のみなさんから刺激を受け、留学へのモチベーションが高まっている様子が見られました。



19 日目【7 月 12 日（金）】（オンライン実施）

◆ 振り返りディスカッション

これまでの研修を振り返り、講義や訪問先で学んだことや感じたこと、今後どう活かしていくかなどをグループで共有しまとめました。「このプログラムが私の個人的な成長に大いに役立っていることに気づいた。」「休日も含め、何も学ばなかった日は一日もなかった。」「私たちが共有した同じ体験について、他の人の違う視点を聞くのが興味深かった。」と話し、最終発表で発表することについても話し合いました。

◆ 報告書作成

これから、本研修で学んだことをどのように活かすか、またどのように発信していくのか、各自の報告書を作成しました。

22 日目【7 月 15 日（月）】（オンライン実施）

◆ 帰国オリエンテーション

帰国に向けて、離日日のスケジュール、荷づくりの注意点などを確認しました。

◆ 最終発表準備

翌日の最終発表に向け、振り返りディスカッションで出たことも踏まえて、この研修で何を学び、どう活かしていくかを話し合い、グループ毎にスライドを作成しました。

◆ 最終発表リハーサル

作成したスライドを使って、通し練習をしました。実際に前に立って話してみることで、課題がみつきり、内容の量や発表する時の立ち位置など細かなところを調整しました。

23 日目【7 月 16 日（火）】

◆ 最終発表（オンライン実施）

「日系人と懸け橋としてのニッケイ」「日系人とアイデンティティ」「日系人のポテンシャル」「日本文化と習慣」の 4 つのテーマをもとにグループ発表を行いました。各グループとも、研修中に学んだことに考察しまとめられていました。

◆ 閉講式（ハイブリッド実施）

JICA 横浜の大野所長より、修了証の授与を行い、研修員による代表挨拶で締めくくりました。



24 日目【7 月 21 日（金）】

◆ 離日日

研修員 27 名は、研修を通して距離を縮め、絆を深めました。仲間との別れを惜しみつつ、それぞれ帰国の途につきました。

V 研修員の感想

1.

1.	ブラジル/パラナ連邦大学 建築学部建築学科 このプログラムを通じて、自分の歴史や日本についてのすべての疑問に答えを知ることができました。私たちは書道、茶道、12 世紀の村（鎌倉）訪問など、JICA の研修がなければ恐らくできなかった様々な活動を通じて日本文化を学び、体験することができました。 また、私たちの日系アイデンティティについて理解を深め、それがどのように「懸け橋」としての役割を果たすのかを学ぶことができました。私は、このプログラムには日系コミュニティを強化する可能性があると思っています。特に私たちの世代の日系人は、日本文化や自分たちのルーツを守ることへの関心を失いつつあります。 ブラジルの日系人である私たちの世代は、この過程において重要な役割を果たします。なぜなら、私たちは日本から移住してきた一世と直接交流できる最後の世代である
----	---

	可能性が高いからです。 この経験は一生に一度のものであり、私は多くのことを学び、他の国の友人たちと素晴らしい思い出を作ることができました。 たとえ異なる場所から来たとしても、日系人としてのアイデンティティが私たちをつなぎ、多くの共通点を持たせてくれました。この機会に心から感謝しています！
2.	ブラジル/サンパウロ大学 建築学部建築学科 本当に素晴らしく、すべての活動には目的と意味があり、すべてが私たちの日系人への理解を大いに深めてくれました。今では、自分の先祖が自分にとって本質的なものであり、より深くつながっていると感じています。JICA にはこれ以上望むことはありません。スタッフは私たちのことを本当に気にかけてくれたので、ずっと安心していられました。
3.	ブラジル/パラナ連邦大学 栄養学科 この日本への研修プログラムに参加したことは素晴らしい経験であり、多くの学びの機会となりました。日本文化や自分のルーツ、家族の移住の歴史について多くを学び、他の国の人々と共に日系人としてのアイデンティティを理解することができました。様々な国から来た日系人たちとの出会いにより、それぞれのコミュニティが独自で日本の伝統を守っていることを知りました。このことは、わたしに日本文化の多様性を認めさせましたし、日本でこのことを学ぶことは素晴らしいことでした。 この交流は私の視野を広げ、私たちの文化・伝統の重要性を理解する助けとなり、私のルーツや日本の伝統についてもっと知りたいという欲求を呼び起こしました。このような機会を与えてくれたことに感謝し、学んだことを地元で生かしたい気持ちでいっぱいです。
4.	ブラジル/パラナ・マッケンジ大学 医学部医学科 JICA 研修プログラムへの参加は、日本の文化、伝統、言語についてさらに学ぶだけでなく、自分の伝統をより深く理解し、日本人移住者の子孫としてのより強いアイデンティティを育む素晴らしい機会でした。 私は一生大切にしたい他の国から来た友人や、決して忘れられないことをたくさん教えてもらいました。 このプログラムを通じて、豊かな文化を大切にすることがどれほど幸運なことかを実感し、ブラジルと日本の架け橋となり、両国が互いの未来に貢献し、それぞれの良い点を学び合い、より良いコミュニティを発展させることができると感じました。
5.	ブラジル/パラナカトリック大学 法学部 この研修は私の人生で最高の経験の一つでした。この機会を通じて、他の状況では見られない日本の別の視点を見ることができました。日本文化、習慣、そしてニッケイのアイデンティティの重要性について多くを学びました。また、自分の先祖についてもっと知り、家族の歴史や経験に近づくことができました。このプログラムは私の人生に多くの良い思い出と永遠の友人をもたらし、私の期待を確実に超えました。
6.	ブラジル/ソロカバ大学 化学学部

	この研修を一言にすると「とても楽しかったです。」 この期間新しい友達ができ、他の国の海外移住を比べてみて、日本のことをたくさん見られて、日本の大学を見学できて、全部がとても楽しかったです。自分はここで出会った人達や経験をしたこと永遠に忘れられません。この研修の間に出会った人達やプログラム、そのすべて自分が思っていたよりも楽しかったです。日本は想像と違う所がたくさんありました。JICA、JOCA、研修員、STAFF の皆さんありがとうございました。
7.	ブラジル/パラナ連邦技術大学 コンピューター情報学科 この研修プログラムを通じて多くのことを経験して学びました。JICA と JOCA のスタッフ、同僚、友人、教授たちがもたらした知識、サポート、協力、存在によって、この滞在は私の人生にとって非常に豊かなものとなりました。
8.	ブラジル/サンパウロ大学連邦大学 文学部ポルトガル語学科 この研修が私にとってどれほど重要だったかを言葉で表現するのは難しいです。この研修は、私の人生に対する見方を変えました。初日から最終日まで、すべてが忘れられないものでした。それぞれの講義で自分自身、過去、ルーツについて学びました。このプログラムは、体験した人だけが理解できる、説明しがたい文化的な没入感を提供してくれました。講義、海外移住資料館、歴史的な場所への訪問は、自分の歴史について学ぶために非常に重要でした。また、日本の学生、留学生、長年日本に住んでいる人々との交流は、私にとって特別な瞬間であり、永遠に心に残るでしょう。残念ながら、プログラムの終了時、研修員の間で新型コロナウイルス感染症の感染者が出たため、いくつかの制限を課されましたが、それでも、素晴らしい経験でした。 私はまた日本に戻り、新しい経験をしたいと思っています。まだ自分の原点である国について学ぶべきことがたくさんあると感じています。この旅の扉を開き、この欲求を目覚めさせてくれた JICA に感謝しています。また会いましょう、日本！
9.	ブラジル/APARICIO CARVALHO 大学 医学部医学科 この旅は私の個人的な視野を広げただけでなく、世界における日本の伝統とのつながりを強めました。世界に対する理解を広げ、文化の多様性を最も生き生きとした形で祝うことができるようになりました。このような豊かな経験ができたことに深く感謝しています。
10.	ブラジル/São CAETANO DO SUL 大学 医学部医学科 この研修プログラム全体がとてもユニークで素晴らしいものでしたが、私にとって最も重要なのは、ここ日本で出会った人々と作った思い出です。この研修プログラムで、コミュニケーションやプレゼンテーションなど多くのスキルを身につけ、ラテンアメリカのさまざまな学生と交流し、彼らの文化や習慣を知る機会を得ました。また、多くの日本の学生とも交流し、日本の歴史や文化についてより深く知ることができました。
11.	アルゼンチン/ラプラタ国立大学 航空宇宙工学科 このプログラムは私に多くの美しい思い出と教を残しました。 各講義では、移住、日系人としてのアイデンティティ、日本文化など多くのことを学ぶことができました。どのクラスもユニークで、日本文化にどっぷり浸かり、自分のル

	ーツやアイデンティティについて深く理解することができました。 一方で、大学の先生方や学生たちと意見交換できたことは充実した経験でした。 最後に、このプログラムを通じて私はたくさんの友人を作り、彼らとの絆を築きました。また、彼らと一緒に、他のラテンアメリカ諸国の異なる文化についても学びました。
12.	アルゼンチン/サルタ国立大学 電気機械工学科 人生を変える経験でした。この研修は私の期待を超え、私自身のアイデンティティの見方を変えました。 最初は遠くて神秘的に思えたこの国にきましたが、今では感謝し愛するようになりました。そして、日系人としての意味や、日本における自分の立ち位置を理解することができました。また、私は「日系」という名前の価値を伝えたいと思います。世界には、故郷もアイデンティティも持たない難民が多くいますが、私たちには名前があり、誇りを持つべきアイデンティティがあります。 今、私は自分の故郷に戻り、この歴史と文化を広め、守ることを決意しています。私は来て、学び、見て、愛しました。だからこそ、私が住む場所の日系人に向けて、次のメッセージを伝えたいと思います。「これが私たちであり、私たちができることです。」長い年月を経ても、日本は私たちを探し続け、守り続け、呼び続けています。それに応えるのは私たちの責任です。私たちの外には、新しい世界が待っています。 また、私は「日系」という名前の価値を伝えたいと思います。世界には、故郷もアイデンティティも持たない難民が多くいますが、私たちには名前があり、誇りを持つべきアイデンティティがあります。また、このプログラムは、特別な視点から日本の美しい場所を見る機会を与えてくれました。本当に感謝しています。 このプログラムでたくさんの友人ができ、中南米の日系人の間に多くの架け橋を築き、忘れられない思い出を与えてくれました。 私は日系の家族に生まれ、日本が私の人生を変えました。そして今、日本は再び私の人生を変え、私に希望を与えてくれました。研修のおかげで、私の先祖、特にいつか日本に帰ることが最後の願いだった私の祖父も安らかに眠っていると思います。
13.	アルゼンチン/国立技術大学 電子工学科 このプログラムは私の人生において、前後を分けるような特別な経験でした。日本がどのような国か、授業で何を学ぶのかなど、ある程度の期待を持って参加しましたが、私の期待はすべて上回りました。私は新しい考え方や物の見方を持って帰ることができました。講義は非常に充実しており、スケジュールや時間などが非常によく構成されていて、多くの教訓と考察を残しました。外出もとてもよく計画されていて、記憶に残る本当に美しい場所を訪れることができました。日系人や日本の学生と交流することで、自分の成長を感じました。
14.	パラグアイ/カトリカ大学 経営学部経営管理学科 日本に来る前、日本や日系社会のことを知っていたと思っていました。でも、初めて日本の地をふんで、日本を自分の目で見て、自分は何も知らないのだと思いました。短い時間でしたが、とてもいい経験になりました。またいつか日本に行きたいです。

15.	ペルー/カトリカ大学 舞台芸術学部ダンス専攻
	一言で言えば、このトレーニングは、「日系アイデンティティ 101」と呼ばれる大学の理論実践型の科目のように感じました。より深く言えば、この研修は、この研修は日系の歴史や自分の歴史の理解に大きな影響を与えました。この研修に参加し、日常的に日本文化の体験にどっぷりと浸かったことで、自分のアイデンティティや考え、そして「周囲になじめない」という考えに対して、自信と力を感じるようになりました。私はこのプログラムで過ごしたすべての瞬間を大切にし、このすべての知識を今後の仕事で最大限に活用できるように最善を尽くします。
16.	ペルー/リマ大学 工学・建築学部
	このプログラムは、自分たちの祖先についてもっと知りたい日系人にとって素晴らしいものです。
17.	ボリビア/UNANDES 大学 経営ビジネスサイエンス学部 ファッションデザイナー学科
	この研修の間、最初の日から、私は多くのことに圧倒されましたが、どんなに悲しく、嬉しくても、圧倒的であったか、すべての経験を、心の中で大切にします。私たち自身のアイデンティティ、私たちのポテンシャル、そして私たちの歴史についてより理解するのに役立ちました。JICA のプログラムについて、私は色々な経験や旅行も楽しめました。私は感謝の言葉しかありません。今、私はより多くのことを明確に理解することができます。一方、私は他の国の人々に会ったのが嬉しかったです、彼らの文化についてもっと知り、みんなと多くの楽しい瞬間を共有できて良かったです。
18.	ボリビア/UPSA 大学 建築・デザイン・都市計画学部 工業デザイン学科
	このプログラムをとおして、私は日系としてのアイデンティティについて多くを学びました。日本文化に触れることで、自分のルーツをより深く理解することができました。書道や茶道などの体験を通じて、日本の伝統と美しさを感じました。また、他の研修生と交流することで、共通の経験を共有し、絆を深めることができました。特に印象に残ったのは、「日系」という言葉の意味とその重要性について学んだことです。この経験を通じて、私は自分のアイデンティティに誇りを持ち、これからも私の国の日系コミュニティで活動을続けて、若者の日系人にもこの研修に参加する動機を与えたいと思います。
19.	ドミニカ共和国/サン・イグナシオ・デ・ロジョラ技術専門高校
	JICA 研修での経験は、私の人生で最も豊かなものの一つでした。初日から、私たちはお互いをよりよく知るための活動を始め、研修のオリエンテーションを受け、最後の日までのすべての瞬間が学びと発見に満ちていました。 横浜の歴史的な場所への訪問、私たちの国や日系コミュニティについてのプレゼンテーション、書道や茶道などの実践的な活動を通じて、日本文化を深く理解し、味わうことができました。特に、横浜市民防災センターへの訪問や寺院や海外移住資料館の見学が印象的でした。緊急時の行動方法や、ラテンアメリカにおける日本移民の豊かな歴史について多くを学びました。海外移住資料館で祖父がドミニカ共和国に渡った船の写真を見た時は、とても感動し、私にとって大きな意味を持つ瞬間でした。

	他の国から来た研修員との生活や作業も、非常に豊かな経験でした。グループ活動やプレゼンテーションを通じて、コミュニケーションやチームワークのスキルを向上させ、様々な国の研修員と末永い友情を築くことができました。この国際的な経験は、私の個人的・職業的な成長にとって非常に貴重なものになりました。 学びは日本文化や歴史に限らず、英語力の向上、折り紙の作り方、日本の地下鉄の使い方、効果的なプレゼンテーションの方法など多くのスキルを身につけました。これらのスキルは、日常生活や日系コミュニティで活用できます。 私の国を比較すると、日本は安全性、公共交通機関、清潔さなどの面で顕著な違いがあることに気づきました。日本人の安全意識、公共マナー、規律の高さには感銘を受けました。この経験を私のコミュニティと共有し、広めていきたいと思っています。 帰国後、日系コミュニティと経験を共有し、私たちのルーツである日本との関わりをもっと深めてもらおうと考え、会合を開催する予定です。将来的には、特にニッケイのルーツに関心を持たない人のモチベーションを高め、彼らが自分の文化的な伝統を発見し、感謝する手助けをしたいと思っています。 この研修を通して、私はコミュニティに積極的に参加し、私たちの伝統と価値観を守り、広めるリーダーになりたいと思うようになりました。この研修は、日本と私の日系の文化・伝統について学ぶだけでなく、私自身が成長し、コミュニティへの貢献の意識を高める機会となりました。この機会を与えてくれた JICA に心から感謝するとともに、学んだことを私の人生やコミュニティで活かすことを楽しみにしています。
20.	メキシコ/モンテレー工科大学 金融学部 私にとって研修に参加したことは夢のような時間でした。私はようやく自分のルーツと中南米日系人としての立場を理解することができました。このプログラムは、自分自身を再認識し、より深く理解する機会を与えてくれます。
21.	メキシコ/モンテレー工科大学 工学-応用科学部 日本に来るのは初めてだったので、この美しい国に驚かされることを期待していましたが、その期待は本当に減実のものとなりました。このプログラムに参加することは、私の人生で最も素晴らしい経験の一つでした。出会った人々から行ったことまで、すべてが私の人生を永遠に変えました。探しに来たルーツを見つけただけでなく、祖父が理想とした日本文化を継承していくための新たな一歩を踏み出すことができたと思います。
22.	メキシコ/日本メキシコ学院 この研修にとっても感謝しています。家族の歴史、そして日本から世界への移住の歴史を知り、自分のルーツと再びつながることができただけでなく、この経験を通して、3週間で家族のようになった人々に出会いました。困難な時に助けてくれたり、いつも笑顔をもたらしてくれたり、日本について素晴らしいことを探求し発見したりしました。この素晴らしい交流のおかげで、これまで以上に日本で勉強したいと思うようになりましたが、何よりも修了者として支援し、より多くの人々がこの貴重な機会を得られるようにしたいと思っています。

23.	メキシコ/バジェデメヒコ大学 高等部
	私にとって、このプログラムの一員であったことにとても感謝しています。JICA が私たちに与えてくれた機会を本当に楽しみました。人生を変えるプログラムであり、自分の過去やルーツ、そして現在の日本について学ぶことができました。素晴らしい友人を作り、一生の思い出を築くことができました。
24.	メキシコ/メキシコ国立自治大学 哲学・文学部スペイン語文学
	講義や研修旅行、そして他の研修生や教授、大学生との交流を通じて、プログラムでの学びを楽しみました
25.	コロンビア/アンデス大学 経営経済学部
	JICA が日本文化の一部や、日本人のラテンアメリカへの移住史を見せてくれたことがとても良かったです。日系人であることの意味を理解し、生涯続く友情を築くことができました。
26.	コロンビア/ハベリアナ大学 建築学部
	とても良い研修でした。複数の講義を通じて、日系のアイデンティティや先祖について学ぶことができました。また、鎌倉への旅行では、建築や、昔の生活について学びました。
27.	コロンビア/Autonoma del Caribe 大学 建築学部
	この研修で、今まで知っていたものの、その理由を本当に理解していなかったり、単に知らなかったりした多くのトピックについて気づき、認識することができました。また、日本文化の一部を知り、体験することができたほか、日本人や他の国の日系人と関わることで、共通の問題に対する様々な考えを聞くこと、知ることができました。

VI 総評

本研修は、①日本人の海外移住の歴史、自分たちのルーツ、日本文化、習慣等を学び、日本に対する理解を深めることで、日系人としてのアイデンティティを考えること、②日本でのさまざまな経験や交流を通じて、自分の考えを発信する機会を持つこと、③本研修で得た知識、研修の成果を基に、これからの日系社会をリードする発信力のある人材を育成することを目的として実施され、8 カ国から計 27 名の研修員が参加しました。

移住学習では、講師陣の講義を受け、自身の持つ強みに注目したり、アイデンティティを柔軟に考えるヒントを得たりと、視野の広がりが感じられました。また同世代の日系子弟たち、日本で生活している中南米出身者との意見や情報交換を行うことで共感し安心した様子や、理解を深め、視野が広がる様子が見えました。「出身国は違っても、日系人としての経験には共通点があることがわかり、興味深かった。」「私たちには自国と日本をつなぐ架け橋となるすべての可能性と利点がある。」と、自身の持つ可能性に前向きな気づきの声がありました。

大学研修では、全員で同じ大学を訪問して研修を受ける「全体研修」を実施しました。同世代の学生と共に授業に参加し、文化や価値観、課題点などをテーマにディスカッションを行いました。「日本だけでなく、他の研修員の国のこともよく知ることができた。」「学生を目を通して日本を見ることができた」などの声がありました。自身の国と隣国や日本との比較や、様々な考え方や習慣の共通点や相違点を見出し、コミュニケーションを深めていました。

研修旅行では、日帰りで箱根、鎌倉を訪れました。日本の歴史や寺社仏閣、火山、伝統文化、建築、観光、現代の街並みとの対比、宗教など、各々の視点で学びを得ていました。

研修プログラム終了時に実施したアンケートには、「研修で学んだことを伝え、この研修に興味を持ってもらえるようにしたい。」と、多くが自国の日系社会に積極的に関わっていきたいと決意を新たにしていました。

その他、「自国の文化と日本文化を合わせたファッションブランドを作りたい。」と研修員の強みが感じられるものや、「日本語を学び、奨学金に応募し、日本で研究したい。」「修士号取得を目指すかどうか迷っていたが、このプログラムの経験を経て、今は修士号取得を目指したいと確信している。」と、この研修が進路を決める一助になったことが伺えるものがありました。実際に帰国後、同じ国、同じ地域の研修員とイベントを実施したとの話も聞いており、非常に頼もしく感じています。

研修員たちが本研修で出会った仲間や多くの人たちへの感謝の気持ちと、研修で感じたご家族への思いを持ち続け、各国で周囲の方々と協力しながら日系社会をリードし、貢献していく人材になることを期待します。

VII 添付資料（募集要項）

2024年度 「日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）」 募集要項

【研修の沿革及び目的】

本研修は、中南米地域等への移住者の定着・安定のために移住者子孫教育として、2015（平成 27）年度から「日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）」として実施してきました。本研修では、日本人の海外移住の歴史に関する学習、その他各種研修を通じて自分たちのルーツ、日本の文化、習慣等を学んでもらい、日本に対する理解を深めることで、自らの日系人としてのアイデンティティを強化すること、また研修の中で自らの考えを発信する機会を持ち、日本で得た知識、研修の成果を基に、日系社会をリードする発信力のある人材を育成することを目的としています。さらには、本研修が日系社会での日系継承語教育の振興を促し、日系社会の次代を担う人材の育成に寄与することを上位の目標としています。

【研修員】

1. 対象国および受入計画数

9 カ国 29 名 ※2024 年度特別枠含む（次ページのとおり）

対象国	人数	対象国	人数
ブラジル	9名	ドミニカ共和国	5名※
アルゼンチン	2名	メキシコ	4名※
パラグアイ	2名	コロンビア	2名※
ペルー	2名	ベネズエラ	2名※
ボリビア	1名	合計	29名

※2024 年度特別枠について

特別枠とは 2020 年度～2022 年度新型コロナウイルス感染拡大により、本邦研修が中止となり、多くの子弟の来日の機会が失われたことから、可能な限り多くの子弟の来日を実現できるよう、2020年度～2022年度当時に中学生年齢であった子弟を対象に以下の対象国について通常募集の対象人数に加えて追加募集するものです。

(1) 対象国（人数）

ドミニカ共和国（4）メキシコ（3）コロンビア（1）ベネズエラ（1） 計9名

(2) 対象者

以下のすべてに該当する者

- 1) 2024 年度研修参加時点で、17 歳以上、19 歳以下の者
- 2) 本プログラムは大学生を対象としているため、全日程を18歳から30歳の参加者と共に行うこと、大学生の研修内容であることを応募時に本人及び保護者が理解し、同意していること。
- 3) 生活面、学習場面で年齢差が生じることを考慮し、発言、行動できること。

※上記項目以外の資格要件は通常募集枠の応募者と同様です。以下3. をご確認ください。

2. 研修概要

(1) 内容

プログラム	内容	研修場所
移住学習	海外移住資料館等の見学 移住に関する講義、ワークショップ 各研修員の出身国、移住地の日系移民 についての歴史や文化の報告	JICA横浜 史跡、博物館等
大学における研修	講義、研修 日本の大学生との交流等	首都及び神奈川県内の大学（予定）
日本文化体験	日本の文化体験	JICA横浜（予定）
研修旅行	日本の産業界との交流 日本の社会・職業文化の理解	未定

【重要】実際の研修内容が上記から変更となる可能性があります。

(2) 研修期間（予定）：24日間

2024 年 6 月 24 日（月）から 2024 年 7 月 17 日（水）

3. 応募資格要件

応募者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。

- (1) 海外移住者及び概ね日系3世までの海外移住者の子孫（※）であること。
※日本人移住者の血統を引く者を指します。
※事業対象国に定住していること（主たる生活基盤があること）。
- (2) 研修参加時点での年齢が18歳以上30歳以下であること。ただし、2024年度特別枠については上記1. 対象国および受入計画数「※2024年度特別枠について」を参照ください。
- (3) 本事業対象国の高等教育機関（大学学部）に所属し、品行方正かつ将来の日系社会の発展に貢献するに十分な素質があると認められること
- (4) 自分のルーツや日本に対する理解を深めることに高い関心があること。
- (5) 日常会話レベルの日本語力を有すること。また、研修の講義を受講し、かつ議論に参加できるレベルの英語力を有すること。
- (6) 心身とも健康で、本邦での集団生活に耐えられること。
- (7) 来日から帰国までJICA指定の全日程に参加できること。
- (8) 親権者または保証人の同意が得られること。

4. 所要経費

規程に基づき次の経費をJICAが負担します。

- (1) 指定する経路の往復航空運賃（ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料もJICAが負担します。）
- (2) 本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費
- (3) 乗継のための第三国での宿泊に係る経費
※自国内移動の際に生じる宿泊に係る経費は自己負担です。
※6時間未満の滞在は対象外です。
- (4) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中生活費（食費）は、規定に応じて来日後に日本円で支給します。
※日をまたがない6時間以上の第三国滞在は対象外です。

<支給額>

- 1) 本邦滞在中 生活費 2,200円/日 ※朝食及び夕食費として
（ただし、現物支給されない日のみ現金支給とする。）
- 2) 第三国滞在中 生活費 4,000円/日 ※朝食費、昼食費及び夕食費として
- (4) 本邦宿泊施設の利用料金
- (5) 海外旅行保険（往路・研修期間・復路に係る期間）
原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。
※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。
但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

〈留意事項〉

各国の国内線利用区間は保険対象外です。必要な場合は各自で加入してください。

- (6) 所外研修、大学での研修、研修旅行のために必要な交通費
- (7) 研修先に対する研修経費

5. 応募書類

応募書類は以下のとおりです。

- ・作成の際は、2024年研修初日時点の情報を記入してください。
- ・JICA様式を使用してください。

(1) JICA様式

1) 身上書（様式第1号）

- ・パソコン入力可
- ・氏名（日本語）：

この書類に書かれた氏名表記（漢字・ひらがな・カタカナ）にしたがって、短期滞在査証の申請書類を作成しますので、自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。漢字・ひらがな・カタカナのどの文字を用いるかについても、注意してください。

- ・氏名（アルファベット）：

この書類に書かれた氏名表記（アルファベット）にしたがって、航空券の予約の確認等を行います。自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。スペル、名字と名前の順番、ミドルネームの有無にも注意して記入してください。旅券と航空券の氏名表記が異なると、搭乗できなくなります。

※旅券をこれから申請する方は、必ず旅券申請書に記入する氏名表記で記載してください。

旅券と査証、航空券の氏名表記が異なると、渡航できなくなりますので注意してください。

- ・国籍：渡航に使用する旅券に記載されている国籍を記載してください。

※国によって短期滞在査証が免除となる可能性があります。詳細についてはJICA事務所からの指示に従ってください。

2) 誓約書（様式第2号）

- ・応募者のサイン欄は、必ずご本人がサインしてください。
- ・親権者または保証人のサイン欄は、親権者または保証人自身が書いてください。

3) 病歴申告書（様式第3号）

- ・パソコン入力可（署名は自筆）
- ・2024年度より応募時は医師による健康診断書の提出は不要です。JICA様式による自己申告です。

仮合格者は、病歴申告書の記載内容によっては、医師の診断書の提出が必要になる場合があります。

- ・提出前に未回答項目や記入漏れがないか、確認してください。
- ・既往症、服薬中の薬、アレルギー等の持病も、必ず申告してください。
- ・現在治療を受けている疾患があれば、応募時に研修参加に支障がない旨の主治医の診断書も提出してください。
- ・既往症や服用中の薬、アレルギーがない場合も、記載内容によって主治医の診断書を提出していただく場合があります。
- ・研修期間中に既往症や持病が悪化した場合、国内医療機関受診時に発生する医療費は海外旅行保険適用外のため全額自己負担となります。

※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

※記入事項に虚偽があると判明した場合には、研修に参加できなくなる可能性があります。

4) 小論文（「本研修の参加目的と計画」）（様式第4号）

英語又は日本語で書いてください。

- ・パソコン入力可
- ・日本語の場合は、手書きも可。

※「本研修になぜ参加しようと思ったのか。どのような目標を持っているか。帰国後、本研修の経験をどのように活かしたいか。」について、日本語又は英語で書いてください。

(2) 写真…2枚（データ可）※

最近6ヶ月以内に撮影したもの。（縦4.5cm×横3.5cm、上半身、正面、脱帽、裏目に氏名・国名を記入）

※1枚は身上書に貼付け、もう1枚はデータで他の応募書類とともに提出してください。

(3) 所属日系団体からの推薦状

正本1通

※所属団体がない場合は提出不要ですが、応募を機会に近辺の日系団体とコンタクトを取っておくことが望ましいです。

(4) 大学在籍証明書※ 7

正本又は写しの公正証書1通

(5) 大学の成績証明※

正本又は写しの公正証書1通

(6) 日本語能力試験認定書等の日本語能力に関する証明書

写し1通

※公的試験等を受けたことがない場合は提出不要。

(7) TOEIC、TOEFL等英語能力に関する証明書類

写し1通

※公的試験等を受けたことがない場合は提出不要。

(8) 旅券の写し

5. (1) 1) 身上書に記載した、渡航時に使用する旅券の写しを提出してください。

① 既に旅券を所有している場合

査証や出入国記録が記されている全てのページを提出してください。

② 旅券を所有していない場合

JICAからの合否の通知を待つことなく直ちに旅券の取得手続きを開始してください。

※合否に関わらず、旅券取得経費については自己負担であることを説明願います。

※上記必要書類がすべて完全かつ正確に記載されていない場合、またすべての書類が募集締切日（各国によって異なる）までに揃っていない場合は受理できません。

(8) 旅券の写し②に該当する応募者の方は、早急に手続きを始めてください。

(注) 提供された個人情報、①合否の判定、②研修受入の手続き、③事業実績の取りまとめ等に利用します。

6. 応募書類の提出締切と提出方法

(1) 応募書類の提出締切

JICA事務所の選考スケジュールに従い提出してください。

(2) 提出方法

JICA事務所の指定の方法で提出してください。

7. 受入決定

応募書類を基にJICA横浜にて最終選考を行い、仮合格通知を発出します。その後、外務省の短期滞在査証発給審査を経て受入回答を行います。

8. 研修員の資格取り消し

研修員が次の事項に該当する場合、JICAはその資格を取り消すことがあります。この場合、

(6) および (8) の事項を除き帰国に必要な経費は研修員の自己負担とします。

(1) JICAの規則、指示および決定に従わなかったとき

(2) 研修先の規則に違反した場合

(3) 日本国の法令に違反した場合

(4) 本人の故意、重大な過失または怠慢等により、研修を継続することが困難と認められるとき

(5) 本人の都合により研修を中断したとき

- (6) 心身の著しい障害、傷病等のために研修を継続することが困難と認められるとき
- (7) 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- (8) その他JICAがやむをえないと認める事由があるとき

9. 帰国報告会

研修員は帰国後、居住地近隣の日系団体等（日本人・日系人協会、各都道府県人会等）で報告会を行うことが義務付けられています。帰国報告会の実施及びその報告書を在外事務所担当者に提出してください。報告書の様式はJICA事務所から手交されます。

※報告会は、研修員が体験したことについて、日系団体等に共有するとともに本事業の広報の目的としても位置づけています。

(1) 提出締切と提出方法

在外事務所のスケジュールに従い提出してください。

(2) 提出方法

各在外事務所の指定の方法で提出してください。

10. JICA 横浜の施設利用制限

2024 年度は JICA 横浜で施設の改修工事が行われているため、施設利用が制限されており、研修プログラムは周辺施設にて実施されることがあります。

11. その他

新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、研修プログラムの変更、または来日中止となる可能性があります。

【注意事項】

1. 研修参加にあたって

- (1) 新型コロナウイルス感染等の影響により、研修プログラムの変更または来日が中止となる可能性があります。
- (2) 家族の同伴は認められません。
- (3) 滞在延長や帰路変更は、研修員/引率者の自己負担であっても認められません。研修終了後は JICA が定めるスケジュールで帰国してください。

2. 仮合格通知受領後の提出物

(1) 肖像権および個人情報使用承諾書

本研修期間中、JICA が契約するカメラマン又は委託先が、広報（各種報告書含む）用として写真及び動画の撮影を行いますので、写真及び動画の使用目的等について確認のうえ、研修員及び（未成年の場合）親権者が署名してください。

(2) 医師の診断書

- ・応募時に提出された病歴申告書の記載内容によっては、医師の診断書の提出が必要に

なる場合があります。

※応募時点で、治療を受けている疾患があれば、応募時に病歴申告書に加え、研修参加に支障がない旨の主治医の診断書を提出してください。

3. 渡航準備

(1) 旅券

旅券を所持していない場合は、早急に申請手続きを開始するようにしてください。仮合格の連絡を受けてから旅券取得手続きを開始すると、査証取得が間に合わないおそれがあります。

※日本旅券を申請する場合には、戸籍謄本の取得等に時間を要します。

(2) 査証

※査証は、日本の外務省で審査が行われた後、居住国の日本領事館に申請し、発給されます。国によっては短期滞在査証が免除される場合がありますので、JICA事務所の指示に従ってください

※身上書には、渡航時に使用するパスポートに記載の国籍を記載するようにしてください。

(3) その他必要書類

1) 身分証明書等

日本旅券で渡航する研修員は、居住国における身分証明書等、在住国に居住していることを示す書類を、念のため持参してください。（原本の持参が難しい場合には写しを持参してください。）

帰国時、見かけ上、日本人が片道航空券で居住国に渡航するようにも見えるため、帰路空港でのチェックイン時に航空会社から、当該研修員が貴国に居住している（永住権・定住権等がある）ことを示す書類の提示を求められるケースがあります。

2) 出国承諾書等

居住国や経由する国によって査証以外の必要書類（未成年者の渡航に対する親権者の承諾書等）が要求されることがあります。

4. 滞在中及び帰国時

(1) 2024 年度は JICA 横浜で施設の改修工事が行われています。

- ・宿泊棟が利用できない場合、周辺の宿泊施設に宿泊します。
- ・セミナールームが利用できない場合、研修プログラムは周辺施設で実施します。

以上

別紙：「日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）」応募書類様式

- (1) 身上書（様式第1号）
- (2) 誓約書（様式第2号）
- (3) 病歴申告書（様式第3号）
- (4) 小論文「本研修の参加目的と計画」（様式第4号）